



三井住友信託銀行における インパクトファイナンスの取組

2021年6月29日
三井住友トラストホールディングス
三井住友信託銀行株式会社
経営企画部 サステナビリティ推進部
林田稔

1. 当グループのインパクト投資ポートフォリオ全体像とその中における「ポジティブインパクトファイナンス」の位置づけ
2. ポジティブインパクトファイナンスの取組み紹介、具体的な融資先の事例(特にIMMのプロセスや手法)
3. 融資におけるインパクト・マネジメントは実際に何ができる何が難しいか？
4. 非上場・上場株式と融資におけるIMMと融資におけるIMMで、本質的に同じことと、実務上異なる点
5. 融資で質の高いIMMを推進する際に、業界として乗り越えるべき課題は何か、今後何が必要か？

1. 当グループのインパクト投資ポートフォリオ全体像とその中における「ポジティブインパクトファイナンス」の位置づけ
2. ポジティブインパクトファイナンスの取組み紹介、具体的な融資先の事例(特にIMMのプロセスや手法)
3. 融資におけるインパクト・マネジメントは実際に何ができる何が難しいか？
4. 非上場・上場株式と融資におけるIMMと融資におけるIMMで、本質的に同じことと、実務上異なる点
5. 融資で質の高いIMMを推進する際に、業界として乗り越えるべき課題は何か、今後何が必要か？

変化するESG市場(手法の多様化と深化)

第1世代
ESGへの気付き
<PRI以前～現在>

第2世代
ESG統合(integration)
<PRI～現在>

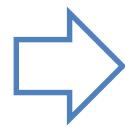
第3世代
インパクト投資
<現在>

投資除外(倫理追求)

経済(投資)リターン追求

経済+社会リターン追求

エンゲージメント・議決権行使は各世代(手法)において目的に応じて活用される



2006年4月
責任投資原則(PRI)

2019年9月
責任銀行原則(PRB)

責任銀行原則 6つの原則



原則 1: 整合性（アライメント）

事業戦略を、持続可能な開発目標(SDGs)やパリ協定及び各国・地域の枠組で表明されているような個々人のニーズ及び社会的目標と整合させ、貢献できるようにする。



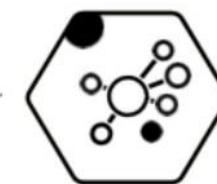
原則 2: インパクトと目標設定

人々や環境に対して、我々の事業および提供する商品・サービスがもたらすリスクを管理しネガティブ・インパクト（悪影響）を低減する一方で、継続的にポジティブ・インパクト（好影響）を増加させる。そのために、重大なインパクトを与える可能性のある分野に関して目標を設定してそれを公表する。



原則 3: 顧客（法人・リテール）

顧客と協力して、持続可能な慣行を奨励し、現在と将来の世代に共通の繁栄をもたらす経済活動を可能にする。



原則 4: ステークホルダー

これらの原則の目的を更に推進するため、関係するステークホルダーと積極的に協力する。



原則 5: ガバナンスと企業文化

効果的なガバナンスと責任ある銀行としての企業文化を通じて、これらの原則に対するコミットメントを実行する。

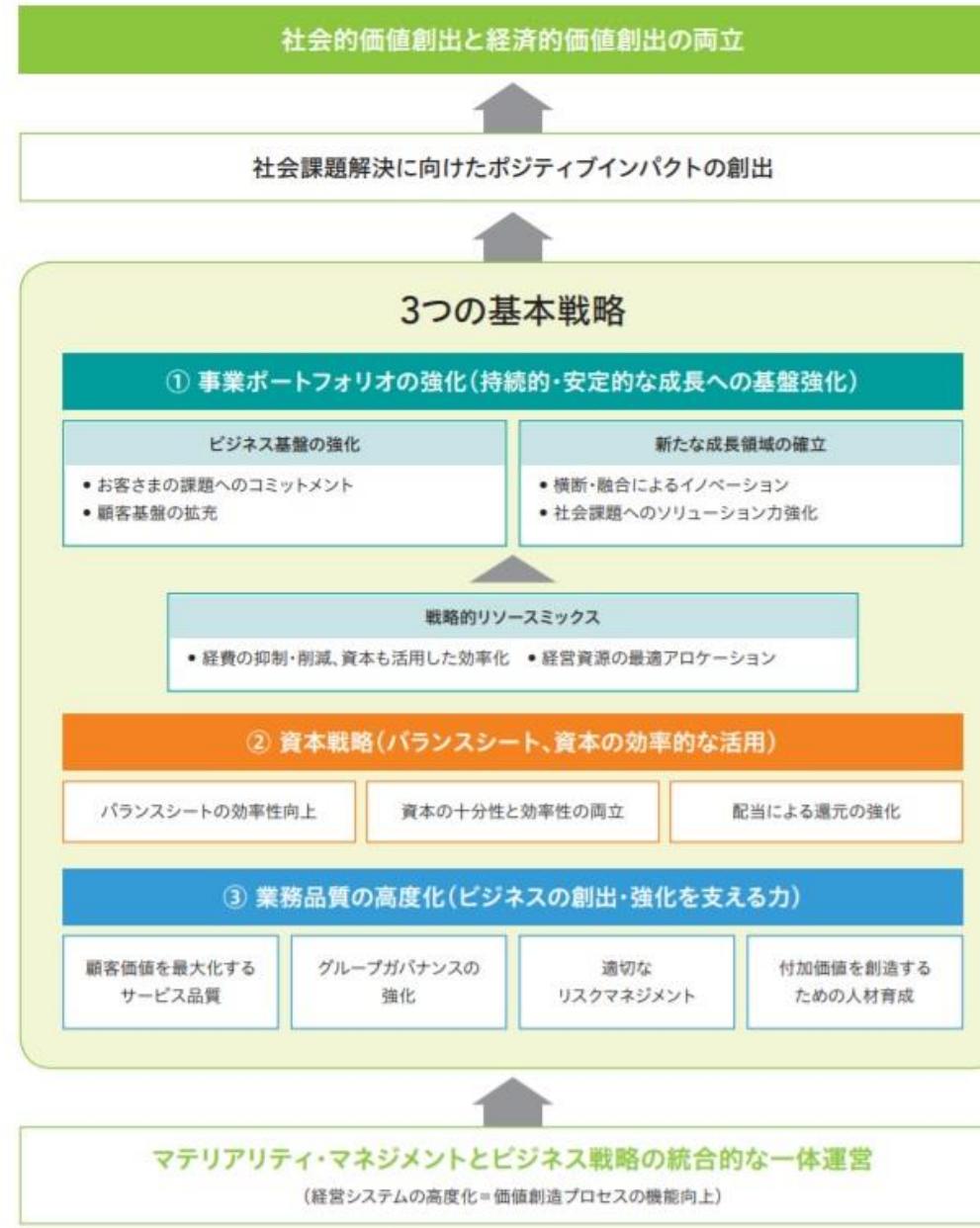


原則 6: 透明性と説明責任

これらの原則の個別および全体的な実施状況を定期的に見直し、ポジティブおよびネガティブ・インパクト、および社会的目標への貢献について、透明性を保ち、説明責任を果たす。

出典: UNEP FI「責任銀行原則とポジティブインパクト金融: サステナブルファイナンスを牽引する新たな枠組み」

インパクトを中心に据えた当グループの中期経営計画(2020年－2022年)



1. 当グループのインパクト投資ポートフォリオ全体像とその中における「ポジティブインパクトファイナンス」の位置づけ
2. ポジティブインパクトファイナンスの取組み紹介、具体的な融資先の事例(特にIMMのプロセスや手法)
3. 融資におけるインパクト・マネジメントは実際に何ができる何が難しいか？
4. 非上場・上場株式と融資におけるIMMと融資におけるIMMで、本質的に同じなことと、実務上異なる点
5. 融資で質の高いIMMを推進する際に、業界として乗り越えるべき課題は何か、今後何が必要か？

ポジティブ・インパクト・ファイナンス

ポジティブ・インパクト・ファイナンス(PIF)は、企業が環境・社会・経済に与えるインパクトを評価するコーポレートファイナンスによって、資源配分をはじめとする価値創造プロセスの効率的、効果的な運営を支援し、活動と成果の循環的な向上をサポートすることを目指します。

価値創造の源泉

財務資本

製造資本

知的資本

人的資本

社会・関係資本

自然資本

ビジネスモデル

ガバナンス
リスクと機会
資源配分

アウトプット

製品
サービス

アウトカム

財務価値

業績向上

社会価値

社会的課題
解決

持続可能な社会の構築と企業価値向上

インプット

ポジティブ・インパクト
ファイナンスの流れ

企業全体の事業活動をポジティ
ブ・インパクト・ファイナンス
(PIF) で支援

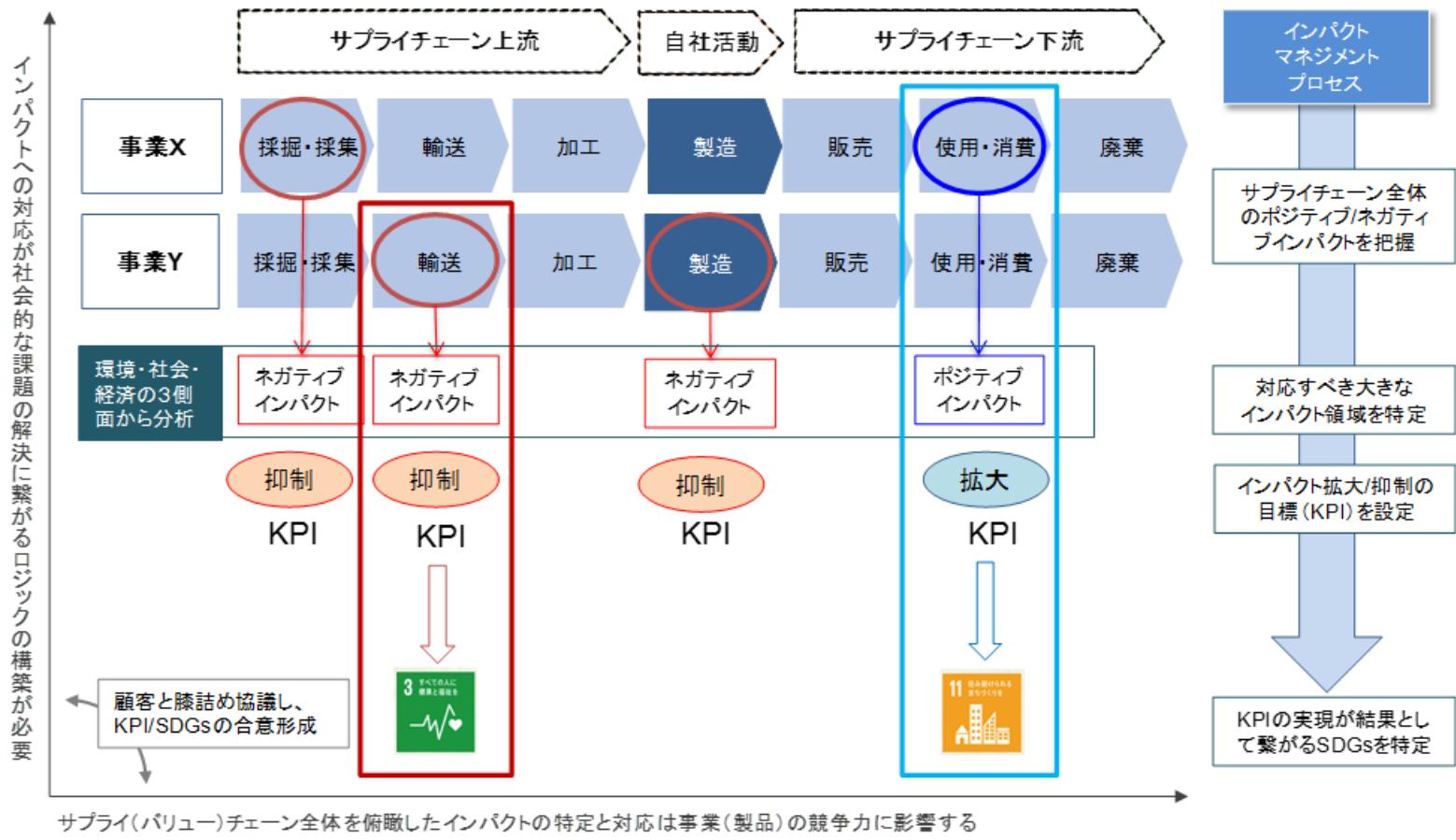
社会課題の解決への貢献を評価
・ポジティブ・インパクトの最大化
・ネガティブ・インパクトの最小化
(KPIを活用)

PIFにおけるインパクト・マネジメント・プロセス

プロセス	実施内容	ツール
事前評価	<p>(1) インパクト・マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 企業のポジティブ or ネガティブ・インパクトに対する方針・取組・体制 	<p>(1) 公開資料・情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ インパクト・マネジメント・スコアリング ➢ EU Taxonomy
インパクトの特定	<p>(1) 包括的分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ セクター(事業領域) ➢ エリア(事業展開地域) ➢ サプライチェーン <p>(2) 個別インパクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ポジティブ or ネガティブ ➢ インパクトのカテゴライズ <p>(3) エンゲージメント</p>	<p>(1) 公開資料・情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 統合報告書 ➢ 中期経営計画・財務諸表 ➢ Webサイト etc. <p>(2) UNEP FI</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ Corporate Impact Analysis ➢ インパクトレーダー
評価	<p>(1) パフォーマンス評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 企業のインパクト・パフォーマンス <p>(2) エンゲージメント</p>	<p>(1) 定量・定性分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 業種別ベンチマーク比較 ➢ 競合他社比較 ➢ Impact Management Project etc. <p>(2) インパクトパスウェイ(ロジックモデル)</p>
目標設定	<p>(1) 目標とKPIの設定</p> <p>(2) SDGsとの紐付け</p> <p>(3) エンゲージメント</p>	<p>(1) SMARTフレームワーク</p> <p>(2) 外務省SDGsグローバル指標 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/index.html</p>
モニタリング	<p>(1) 設定したKPIを定期的にモニタリング</p> <p>(2) 必要に応じてエンゲージメント</p>	(1) 公開資料・情報

包括的分析

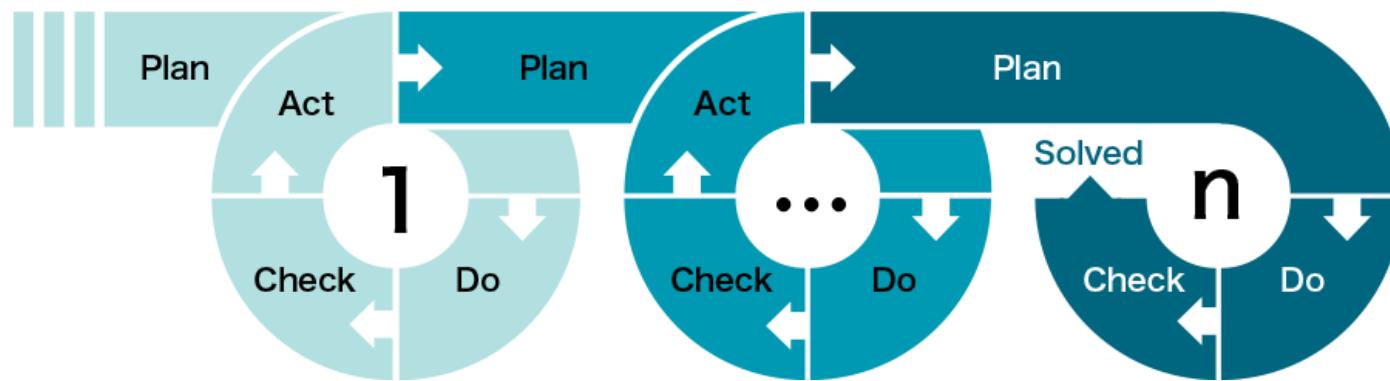
- ✓ セクター(事業領域): 売上及び営業利益の大きなセクターを中心にインパクトを抽出
- ✓ エリア(活動地域): 特定のセクターのサプライチェーンにおいて、どのような種類の活動(調達、生産、販売)がどこ(地域・国)で行われているかを確認。企業のインパクトが及ぼすエリアを特定し、そのエリアとインパクトに関連した社会・環境問題について把握することも必要。
- ✓ サプライチェーン: 企業のセクター、エリアの情報を基に特定のセクターのサプライチェーン全体に渡って、ポジティブだけでなくネガティブなインパクトを与えていたりの領域をマッピング。また製品のライフサイクルの観点からの評価(LCA)が重要。



インパクト評価を行うことの意義:企業価値向上と持続可能な社会の実現

1. 学習・改善

インパクトを評価することが目的ではなく、その評価やKPIのモニタリングの結果を企業がポジティブ・インパクトの向上あるいはネガティブ・インパクトの抑制に向けた現状との”変化を最大化”させるための判断材料に用いる。インパクト評価を、PDCAのサイクルの中に正しく位置づけることによって、事業の改善、インパクトの最大化にインパクト評価を活かしていく。



2. 説明責任

企業がインパクトに係るアクションプランと結果を公に開示することは、ステークホルダーに対する説明責任を果たすだけでなく、企業が生み出す環境・社会的価値をPRすることに繋がり、結果として企業価値の向上に繋がる。なお、UNDPとGRIはSDGs時代における非財務情報開示(サステナビリティ報告)とインパクト評価を次の通り整理。つまり、企業活動や製品・サービスをSDGsに関連付けるのであればインパクト評価が必要。

インパクト評価	社会・経済・環境の目標に対する進捗を示し伝えること
サステナビリティ報告	透明性を高め適切に説明すること

インパクトファイナンス実績

ポジティブインパクトファイナンスの取組実績(企業金融)

融資先	形態
不二製油グループ本社	相対
J. フロントリテイリング	相対
住友金属鉱山	シ・ローン
日本製紙	相対
SUBARU	シ・ローン
住友林業	相対
東洋アルミニウム	シ・ローン
住友ゴム工業	相対
三井化学	シ・ローン
東レ	シ・ローン
DIC	相対
レンゴー	シ・ローン
リコーリース	相対
大日本住友製薬	相対
サッポロホールディングス	相対
古河電気工業	相対
東急不動産ホールディングス	相対

実行件数17件／融資残高1500億円

取組意義に対する外部評価

環境省第1回「ESGファイナンス・アワード」融資部門金賞受賞

(受賞理由)三井住友信託銀行は、サステナビリティを追求するビジネスの推進を取り組みの柱として、サステナブル金融に注力している。また、UNEP FIが制定した各種原則にいち早く賛同するとともに、資金使途のない一般的の融資においては、世界初のPIFを実現した。選定委員会では、顧客との対話を通じたインパクト評価やKPIの設定などのPIFに関する取り組みを今後も継続して進めていく姿勢や、国内外の銀行業界へのPIFの普及にも尽力している点を高く評価した(環境省コメント)



クオリティに対する外部評価

第17回LCA日本フォーラム会長賞受賞

(受賞理由)製品等のインパクトを分析する際には、原材料の採取から加工、製造、物流、使用、廃棄に至るライフサイクル(LCA)全体でのインパクトを対象としている。このように融資の意思決定において、LCAの考え方や手法を活用するライフサイクル思考が、金融業界において意義のある取り組みとして認められた。17回目となる本表彰を、金融機関が受賞するのは初めて。



サステナビリティリンクローン(SLL)の国内累計

国内におけるSLLの累計は1500億円程度
日本経済新聞3月10日”ESGに目標付き融資 達成なら企業に金利優遇”

1. 当グループのインパクト投資ポートフォリオ全体像とその中における「ポジティブインパクトファイナンス」の位置づけ
2. ポジティブインパクトファイナンスの取組み紹介、具体的な融資先の事例(特にIMMのプロセスや手法)
3. 融資におけるインパクト・マネジメントは実際に何ができる何が難しいか？
4. 非上場・上場株式と融資におけるIMMと融資におけるIMMで、本質的に同じなことと、実務上異なる点
5. 融資で質の高いIMMを推進する際に、業界として乗り越えるべき課題は何か、今後何が必要か？

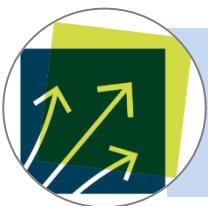
本邦初のリアルアセット系インパクト投資ファンド - 日本の脱炭素化に向けた大きな潮流を象徴 -

□ アンカーシップパートナーズ(ASP)が組成する船舶投資ファンドのインパクトマネジメントを実施



1. グリーン成長戦略 14分野の1つ

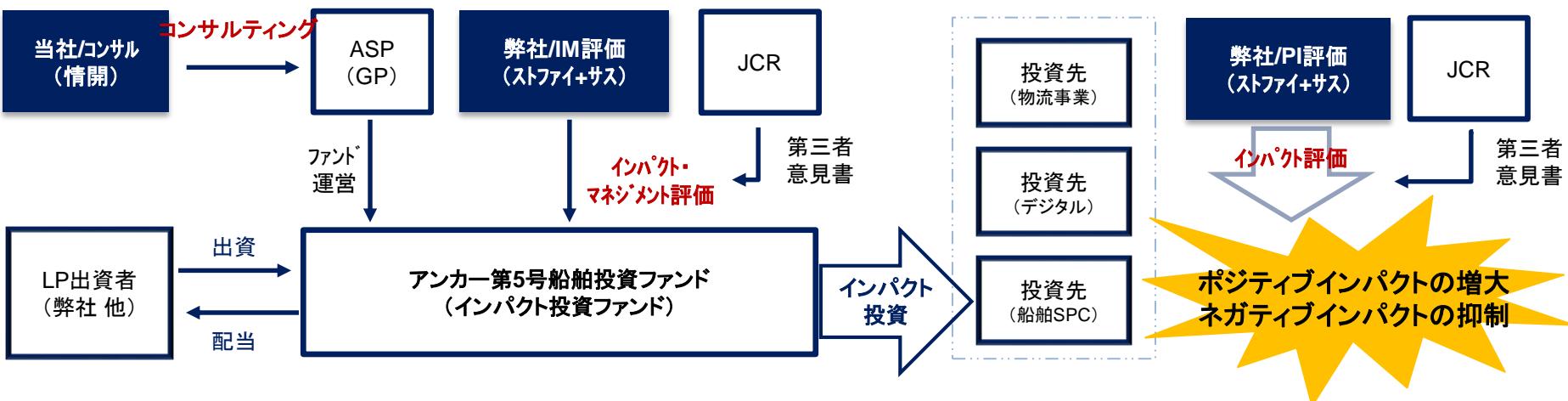
- 船舶業界のカーボンニュートラルに向けたトランジションを促すインパクト投資ファンドであり、国際海事機関(IMO)の脱炭素戦略と整合性を図った投資方針策定を支援



2. 船舶ポートフォリオのCO₂排出量をマネジメント

- 本ファンドのインパクト評価は、弊社の船舶ポートフォリオのCO₂排出量をマネジメントすることに繋がることから、ポセイドンに署名した当社にとって重要な取組

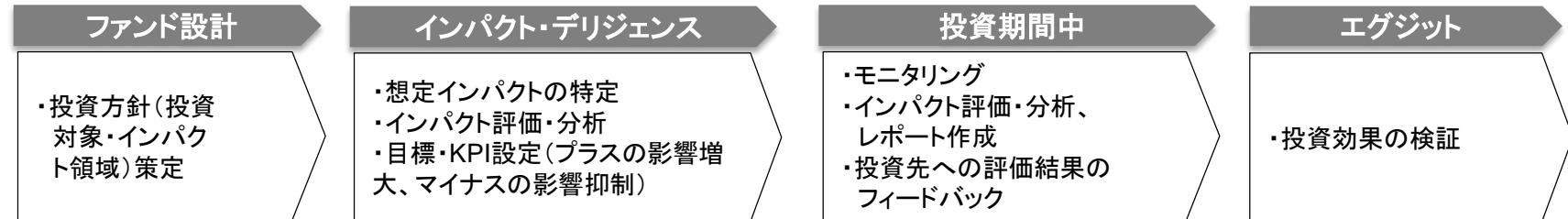
□ スキーム



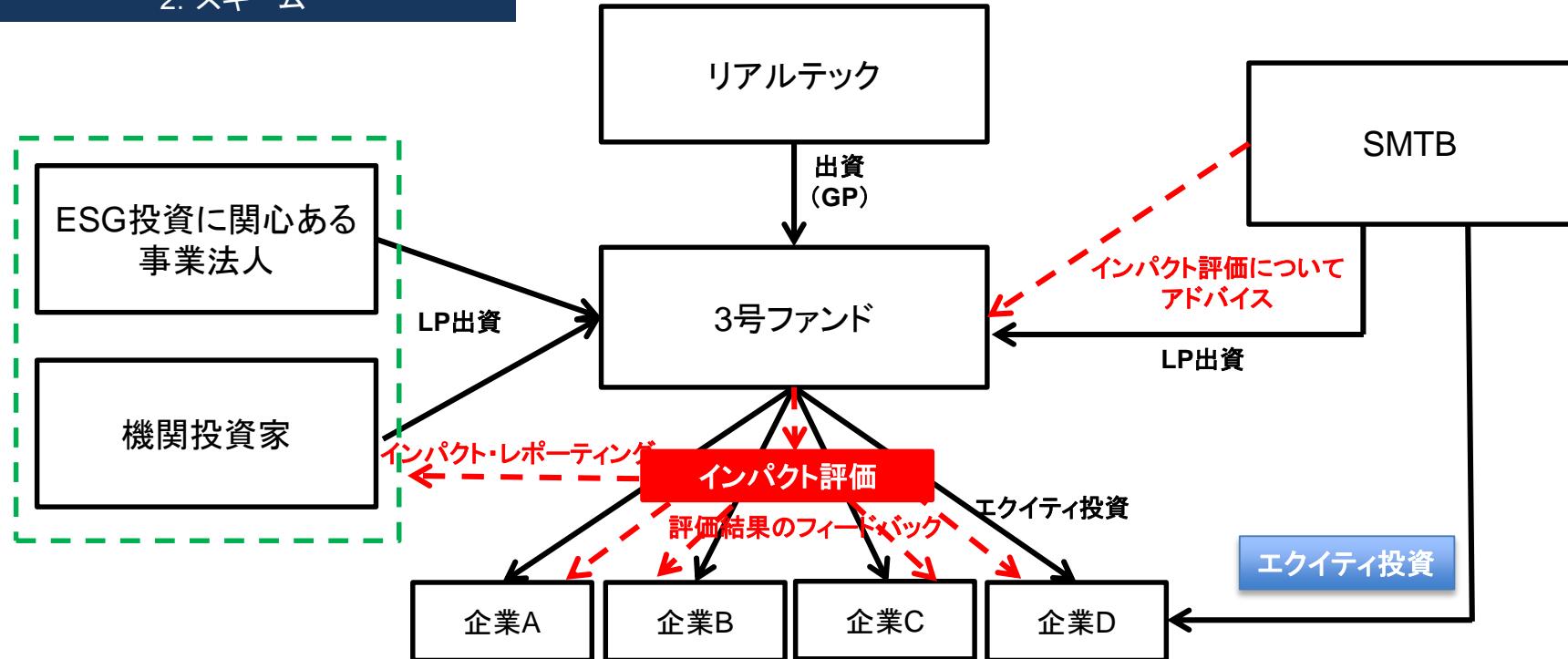
ディープテックを投資対象とするファンドへの支援 - 社会課題解決に資するテクノロジーのインパクト評価 -

1. インパクト・マネジメント・プロセス

- 投資先の活動・製品・サービスが社会・環境に及ぼすインパクトを特定後、定量的・定性的に評価。
- ポジティブインパクトを増大・ネガティブインパクトを抑制するための目標・KPIを設定し、投資期間中に亘ってKPIの達成状況をモニタリング。その結果を投資先企業へフィードバックすることで、投資先企業の経営改善と価値向上を実現。



2. スキーム



1. 当グループのインパクト投資ポートフォリオ全体像とその中における「ポジティブインパクトファイナンス」の位置づけ
2. ポジティブインパクトファイナンスの取組み紹介、具体的な融資先の事例(特にIMMのプロセスや手法)
3. 融資におけるインパクト・マネジメントは実際に何ができる何が難しいか？
4. 非上場・上場株式と融資におけるIMMと融資におけるIMMで、本質的に同じことと、実務上異なる点
5. 融資で質の高いIMMを推進する際に、業界として乗り越えるべき課題は何か、今後何が必要か？

インパクトとテクノロジー

- 「テクノロジー」と「産業」の組み合わせによって、新しい価値(インパクト)と顧客が生み出される
- 金融がテクノロジーを理解することでリスク・リターン・インパクトを正しく評価することができる (Technology-based Finance)
- 新しく創出されるインパクトをいち早く捉えることはビジネス機会の獲得に繋がる

